

ものおもいスクラップ

みじかうた

神崎

悠依

いい女って仕事のできる女じゃなくて できるといふこと隠してるひと

イヤフォンに映る空にはあの子との東京行きを閉じこめてある

二十歳ならハミダシ十代だったけど二十一なら二十代です

母いわく

顔でも金でも性格でもなく皿を片づけられるかどうか

あの眼鏡かけたら違う世界とか少し見えるかな

不在の部屋で

多忙なるお隣さんがベランダで今年も西瓜を割っている夏

通勤の電車で口紅塗るひととバナナ食べてる私のどちら？

公園の芝生を見つけ「草原そうげんに行こう」とはしゃぐ子 この国狭し

愛されるよりも愛したい者同士愛しあつたら束縛しあい

新刊の棚が憎らしくなつたから帰ってペンを手にとりました

ひざびさに背筋したら教徒じゃないが畳のうえでメツカの祈り

かわいいと言われなくなっても別にいい 初々しさが消えた証拠さ

「たら・れば」を繰り返すなら誰だって生まれてこなけりや死ななかつたね

もつたいないと思う時間がもつたいなくて二度寝をあきらめた熱帯夜

「いつてきます」を聞かせてほしいの

「さよなら」に変わっていく日がいつか来るから

連作「梅雨」

おかつてに夏の訪れ告げに来る奴の名前はイニシアルG

日本だしローマ神話に踊らされるな ジューンブライドは梅雨真っ盛り

傘のかけ向かいあってるカップルはキスしてるんだと思ってしまう

快晴の日に雨傘をさしてみる 意外といける日傘のふりで

夕立が好きな理由は街中で泣いてうたえるからだと言った